

## Ⅶ-21 自然再生事業における環境教育の取り組みについての一報告

ニタコンサルタント(株) 正会員 ○ 安芸浩資  
 ニタコンサルタント(株) 吉崎仁美  
 海部郡穴喰町立穴喰小学校 岸本信和  
 徳島大学工学部 正会員 中野 晋

### 1. はじめに

平成 15 年 1 月に施行された自然再生推進法では、基本方針の 1 つとして環境教育の実施が明記されている。また、自然再生事業は、行政の手により進められる従来型の公共事業とは異なり、地域の多様な主体によって実施されるものであることが記されている。地域住民の参画のもと、事業を進めるには、住民が情報を共有し、共通認識を持つ必要がある。ところが、自然再生に参画する意識を持ち続けることは、自然環境の大切さを十分認識している者でも容易なことではない。参画意識を持続するためには、地域の環境への関心の高まりを図ることが不可欠であり、特に、将来を担う小中学生を対象とした環境教育は極めて重要なものと考えられる。

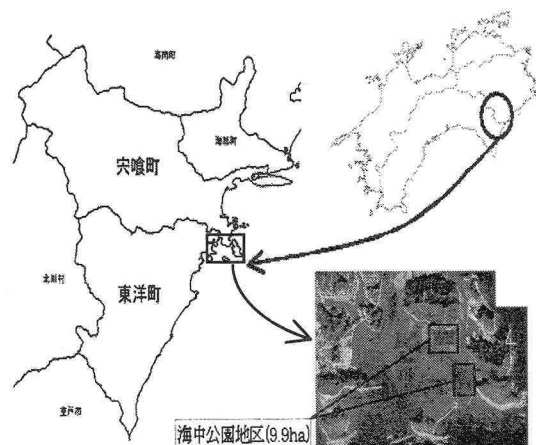


図 1 位置図

本報告は、四国東南部に位置する竹ヶ島海中公園の自然再生における環境教育活動を対象としたものである。竹ヶ島海中公園は 1972 年に海中公園に指定されており、当海域のエダミドリイシを代表とする豊かな生物群集や、アマモ等の藻場は、水産資源の供給源としても貴重なものである。しかし、現在では濁りに強く内湾を好むカワラサングの優占がすすみ、海中公園としての資質が損なわれつつある。徳島県でも県下で初めて自然再生に向けた事業を平成 15 年度から平成 17 年度までの 3 カ年の予定で実施しており、表 1 に示すように、これまでに 6 回の環境教育活動を行っている。これらのうち、本報告では、「総合的な学習の時間(以下、総合学習と称する)」の中で、穴喰小学校(6 年生)との連携のもとに実施した環境教育(表 1 の第 4 回から第 6 回)の活動内容について報告する。

### 2. 自然再生事業における環境教育と総合的な学習の時間の連携

自然再生協議会が環境教育に期待することの 1 つは、子ども達に地域の自然環境に興味を持ってもらうことである。2 つには、子ども達が、聞き取り調査や発表会等を行うことで、地域全体で自然環境に関心を持つ人が増え、自然再生に対しての理解と参画意欲の向上、およびその持続が図られることである。

自然再生事業の場やプロセスは、そのものが環境教育の優れた素材となり得ることから、自然再生事業との関わりは学校教育の視点からも有用なものであると考えられる。自然再生と、総合学習や環境学習との連携を図ることは、それぞれを単独で実施するよりも、より一層の相乗効果が期待される。しかし、自然再生事業と、学校教育の一環である総合学習や環境学習を結びつけるためには、互いのニーズの把握と理解が不可欠である。今回のケースでの学校側の主なニーズは、「小学生各々がエダミドリイシの現状把握を課題追求型の学習により進め、エダミドリイシを保全・再生させるためには、何ができるかということ」を、段階的に専門家の評価を交え、学習

表 1 これまでの環境教育の一覧(平成 15, 16 年度)

| 実施年月日                   | 実施内容 | 対象         |
|-------------------------|------|------------|
| 第 1 回 平成 15 年 11 月 16 日 | 講演会  | 地域住民       |
| 第 2 回 平成 16 年 5 月 10 日  | 講演会  | 穴喰小 4~6 年生 |
| 第 3 回 平成 16 年 5 月 11 日  | 講演会  | 穴喰中 1~3 年生 |
| 第 4 回 平成 16 年 7 月 15 日  | 体験学習 | 穴喰小 6 年生   |
| 第 5 回 平成 16 年 9 月 24 日  | 授業   | 穴喰小 6 年生   |
| 第 6 回 平成 17 年 2 月 20 日  | 発表会  | 穴喰小 6 年生   |

価値を確認しつつ繰り返し思考できる授業プロセスを構築すること」である。

総合学習全体の流れの中での、自然再生事業との関わりを整理し、図2に示した。まず、海の自然環境学習として、海中公園周辺で、身近な海の体験と観察を行った。次に、「サンゴってなんだ？」というテーマでの授業に自然再生協議会委員を派遣した。エダミドリイシの現状についての共通認識をもった子ども達(37人)は、表2に示す、自分たちで考えた9つの課題に分かれ(1班4〜5人)、地元住民からの聞き取り、現地調査や実験などを行い、原因追及の学習を進めてきた。各班毎にまとめたポスターを一例として図3と図4に示す。これらを踏まえ、新たに4つの提案チームを作り、学習のまとめとして、エダミドリイシの現状などを知ってもらおうと、自然再生協議会内や地域住民(100人程度)の前で発表会を行った。

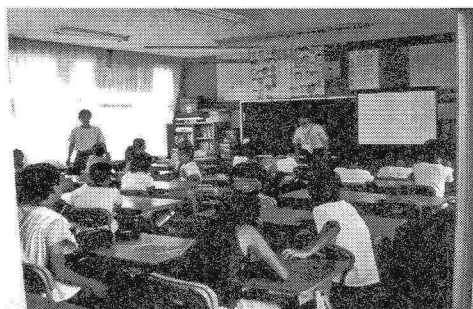


写真1 穴喰小学校(6年生)総合学習での協議会委員の授業風景

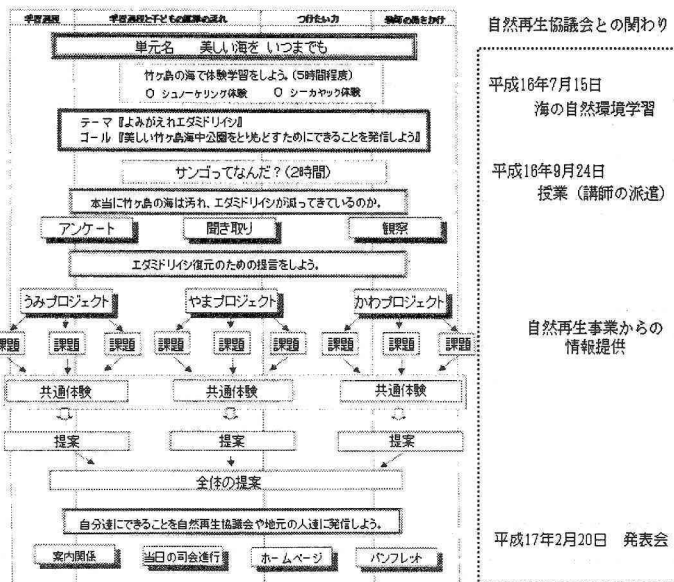


図2 総合学習と自然再生事業との関連

表2 小学生が取り組んだ学習課題の一覧

- ① エダミドリイシを知っていますか？
- ② サンゴのエサ・栄養。
- ③ サンゴの天敵について。
- ④ 防波堤はエダミドリイシに影響を与えているか？
- ⑤ 環境変化とサンゴの関係。
- ⑥ 災害がサンゴにあたえる影響。
- ⑦ 山とエダミドリイシの関係。
- ⑧ 土砂からエダミドリイシを救え。
- ⑨ 移植はエダミドリイシを救えるか？

### 3. おわりに

本報告は、竹ヶ島自然再生推進事業の一環として、自然再生と総合学習を連携させて行った環境教育で得られた成果をとりまとめたものである。これらの活動の定量的な評価については、今後の住民意識調査の結果を待つ必要がある。しかし、発表会を傍聴した父母兄や協議会委員から、大きい反響を感じ得たことは、発表会を行った子ども達だけでなく、地域の多くの方々に環境問題について考える契機を与えることができたと考えられる。これらのことは、定性的な評価ではあるが、長期にわたる自然再生の最初の一步として、将来に続き得る十分な成果として認識できる。

謝辞： 本報告で述べた活動には、徳島県、穴喰小学校、竹ヶ島海中公園自然再生協議会・専門部会や事務局など、多くの方々の御尽力によりなされたものであることを記するとともに、深甚なる謝意を表します。

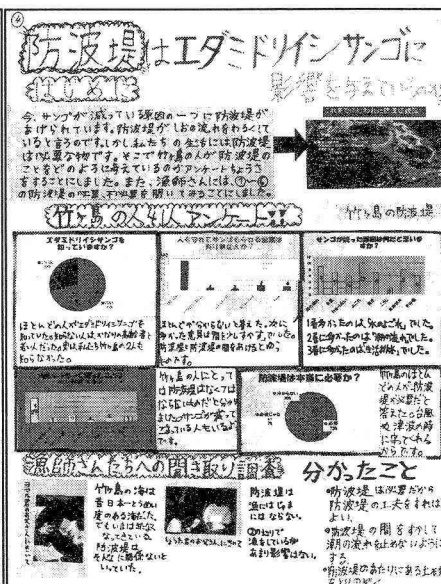
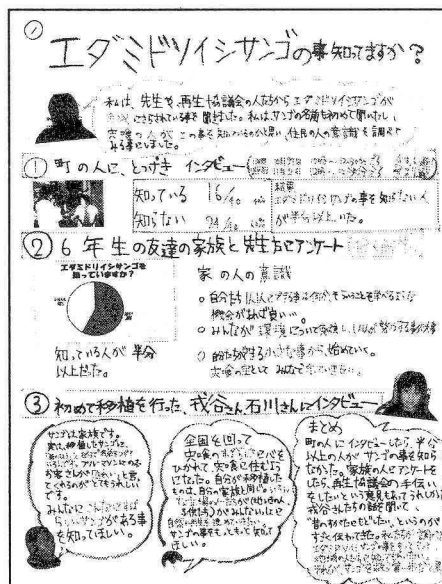


図3 総合学習成果の一例(その1) 図4 総合学習成果の一例(その2)